インクルーシブなまちづくり in 小川町 ―障害者と高校生の視点から―

泉湧太（自然環境学専攻M1）
鷺谷大輔（国際協力学専攻D1）
百瀬 晴菜（社会文化環境学専攻M1）

目次

1. 提案の概要

2. 小川町の障害者

3. 小川町の高校生

4. わたしたちの提案

1.提案の概要

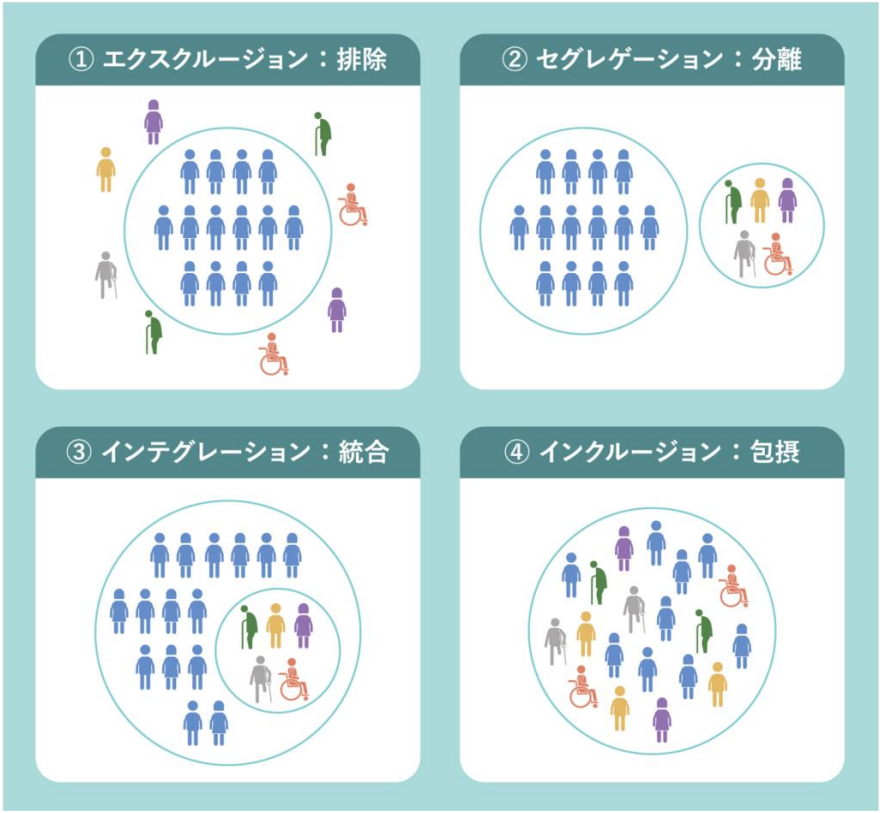
インクルーシブとは

インクルーシブ（包括的／包摂的）

- 「社会への完全かつ効果的な参加および包括」

  ―障害者の権利に関する条約(2006)

- SDGs ターゲット11-3「だれも取り残さない持続可能なまちづくり」「だれもが参加できる形で持続可能なまちづくり」



提案の概要

小川町の「もの」よりも「ひと」に注目

全ての人が住みよい町＝インクルーシブなまちを目指す

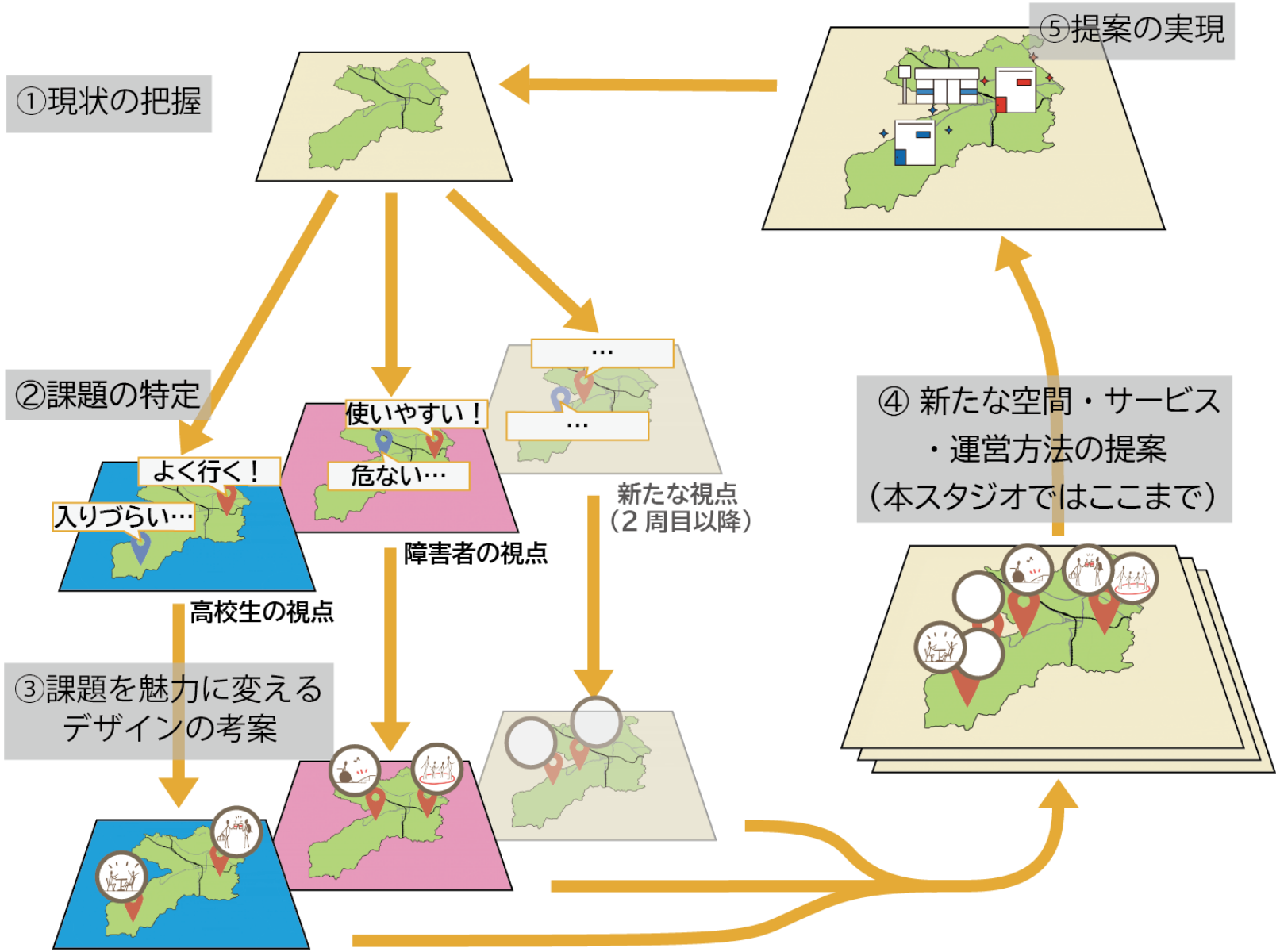
そのために…

- 従来のまちづくりに参加する機会がない人
- 焦点が当たりづらい人

の立場に立つことで、まちに必要なものを見つける

今回は障害者と高校生に注目

インクルーシブまちづくりのプロセス

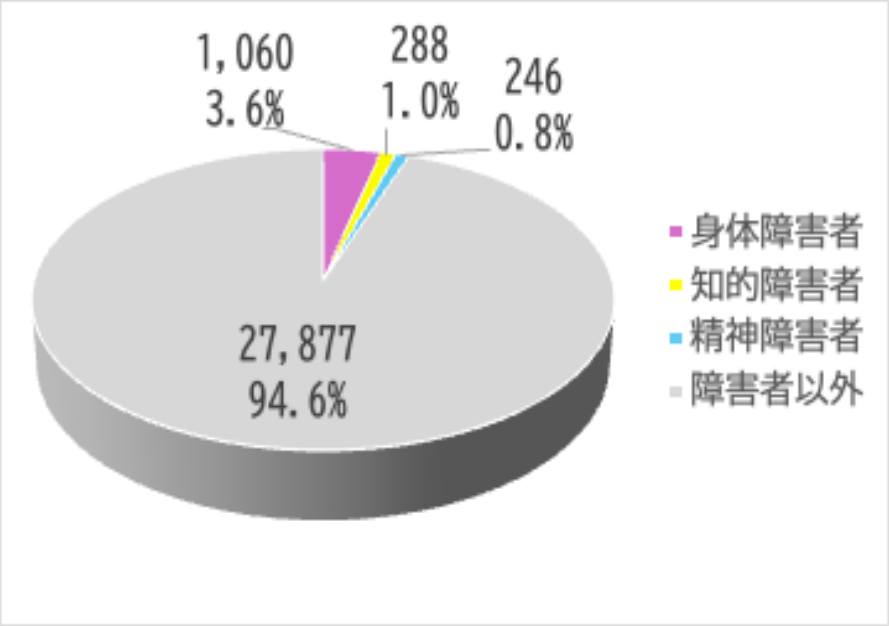


2. 小川町の障害者

我々が目指すのは、誰もが主役になれる小川町。
障害の有無に関係なく、すべての人が公平に暮らせるインクルーシブな未来を描いていく。

小川町の障害者数

小川町の障害者数：
1,594人（5.4%）
（令和元年、障害者手帳保持者数）



出典：おがわノーマライゼーション2021を参照し、本チーム作成

小川町の障害者数（推定）：
3,000人以上（10%以上）？

根拠① 日本では、国民のおよそ9.2%が何らかの障害を有している。（令和6年度障害白書より）
厚生労働省による「生活のしづらさなどに関する調査」、「社会福祉施設等調査」又は「患者調査」等に基づき推計された基本的な統計数値
→ 2,711人（9.2%）

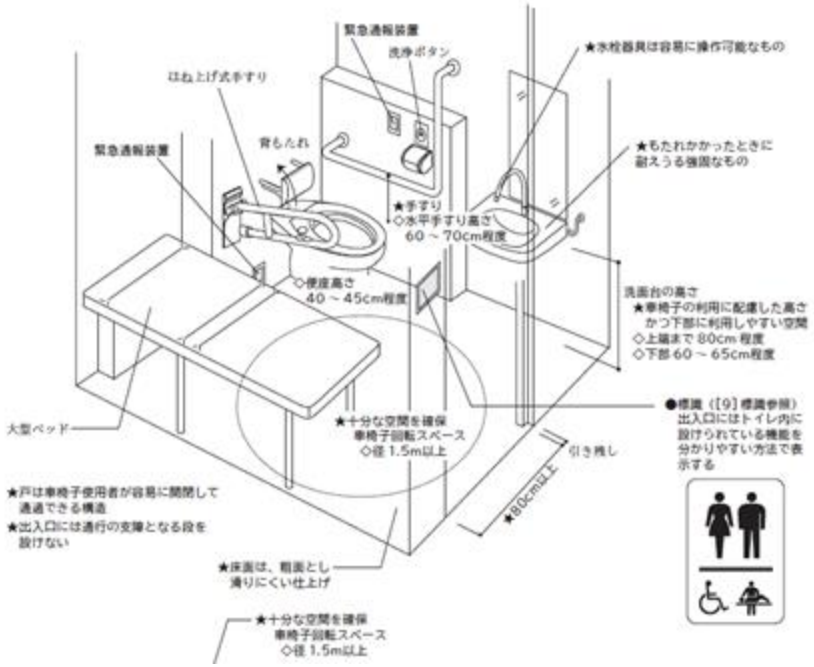
根拠② 小川町の高齢者の割合（令和元年）38.1%
日本の高齢者の割合（令和6年9月15日）29.3%
参照：総務省 https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics142.pdf

→ 一般的に高齢者には障害がある割合が高いため、小川町でも9.2%以上の可能性がある。

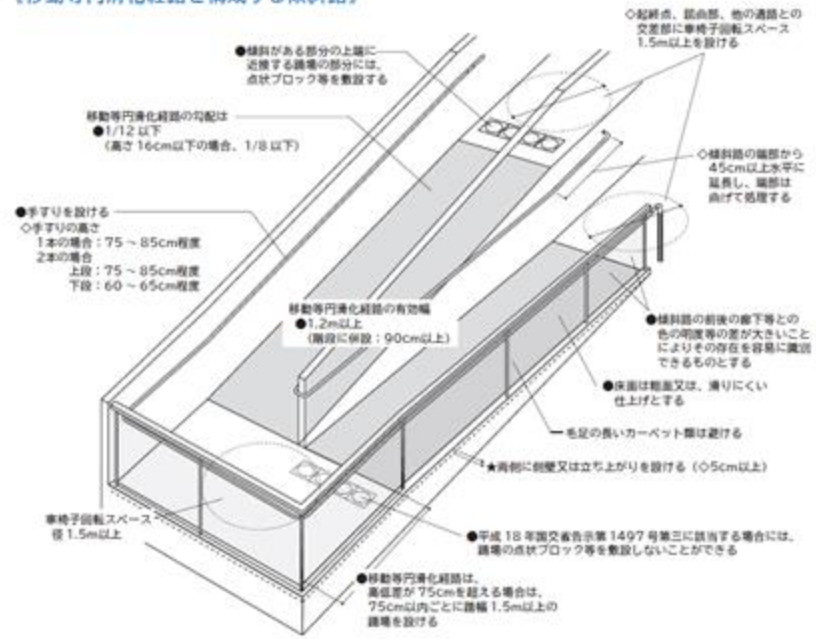
参考：世界では約13億人、つまり人口の16%（6人に1人）が何らかの障害を抱えている。（世界保健機構）
→ 16%に当てはめると、小川町の障害者数は 4,715人（16%）

埼玉県 福祉のまちづくり条例　設計ガイドブック～ 建築物～ 令和3年7月
(バリアフリー法令と埼玉県バリアフリー条例と内容はほぼ同じ)

《車椅子対応トイレの内部》



《移動等円滑化経路を構成する傾斜路》



車いす対応トイレ：床面積の合計が500 ㎡以上（例 20m x 25m）の建築物又は専ら高齢者、障害者が利用する建築物は、利用者の用に供する便所を1以上設けること。

傾斜路（スロープ）：勾配は、1/12 （4.76度）を超えないこと。ただし、高さが16cm 以下のものにあっては、1/8（7.13度） を超えないこと。

廊下：有効幅員は120 cm 以上。180cm以上が望ましい。

研究によると、アクセシビリティのコストは総建設費の1%未満で済むが、建物完成後に改修する場合ははるかに高額になる。（世界銀行）

参照： https://documents1.worldbank.org/curated/en/185031468178138911/pdf/388640EdNotes1August2005CostOfAccess12.pdf）

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律（差別解消法）令和6年4月1日改訂
事業者は、… 社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をするよう努めなければならない。
→事業者は、… 必要かつ**合理的な配慮をしなければならない。**

過重な負担とは：
○ 合理的配慮の提供の義務は、事業主に対して「過重な負担」を及ぼすこととなる場合を除く。事業主は、過重な負担に当たるか否かについて、次の要素を総合的に勘案しながら個別に判断する。
① 事業活動への影響の程度、 ②実現困難度、 ③費用・負担の程度、④ 企業の規模、 ⑤企業の財務状況、 ⑥公的支援の有無
○ 事業主は、過重な負担に当たると判断した場合は、その旨及びその理由を障害者に説明する。その場合でも、事業主は、障害者の意向を十分に尊重した上で、過重な負担にならない範囲で、合理的配慮の措置を講ずる。

障害者の声と
4つのバリア

障害者の声
-小川町のバリア-

小川町在住の

・車いす使用者のAさんと弟

・車いす使用者のBさん

・視覚障害者のCさん

・知的障害のあるDさんの親

に聞き取りを行った。

また、高齢者からも障害者に関する意見を収集し、多角的な視点から情報を得た。

これらの聞き取りにより、小川町の課題（バリア）が浮き彫りになった。そして、それらのバリアを4つの視点で整理した。

障害者の声

車いす使用者のAさんと弟

トイレは、リリックとかヤオコーとか
カインズのを使ってるんだけど、
もっと増えてくれると助かるなあ。
お店にもバリアフリートイレが
あるといいよね。

ヤオコーにいく時
にこの道をいつも
使うんだけど、
少し狭くてガタガ
タするから車いす
は通りにくいんだ
よね。

視覚障害のあるCさん

バスがいつもの場所に停まらなく
て、降りた後に駅がどっちか
わからなくなることがあるんだよ
ね。
バス停の近くに車が停まっている
せいなのかなあ。

音響式信号機が片側にしか
なくて、使うのにちょっと
不便なんだよね。
駅に行くとき必ず通る道だ
からあると助かるんだけど
な。

この高架下の道、狭くてさ、
車がすれ違うとき本当にヒ
ヤッとしちゃうんだよね。
もう少し広かったら安心し
て通れるのになあ。

夕方以降、障害のある子ども
を
預ける場所がなくて困っちゃ
う。
デイサービスも大体17時まで
だから、働く親には厳しく
て・・・。
もっと遅くまで預かってくれ
る
ところがあると助かるなぁ。

知的障害のある
Dさんの親

車いす使用者のBさん

この歩道、幅が狭くて、
横を人が通るときなんか、
避けるのに気を使うんだよ
ね。

移動支援サービスって、予約が取
りづらい上に、行きたい場所に自
由に行けなくて使いにくいんだよ
ね。

課題（バリア）の４つの視点

1. 物理的なバリア
2. コミュニケーション・情報のバリア
3. 制度のバリア
4. 態度・心のバリア

1）　物理的なバリア

- **<u>歩道の未整備</u>**: 狭く段差があるため、車いすでの移動が困難。
- **<u>バリアフリートイレの不足</u>**: 公共施設や店舗においてバリアフリートイレが十分でない。
- **<u>スロープの不足</u>**: 店舗入り口などにスロープが少なく、移動が制限される。
- **<u>スロープの急勾配</u>**: 設置されているスロープも、勾配が急で利用が難しい。
- **<u>誘導ブロックの不足</u>**: 小川町内での設置が少なく、適切な設置計画が必要。

むやみに敷くのではなく

例: 高田馬場

2）コミュニケーション・情報のバリア

- **点字・音声情報の不足**: 点字や音声形式の情報がほとんどない。
- **音響信号機の不足**: 音響信号機が少ない、また、稼働時間が短い。（障害者の声を反映し一部で改善：19時→20時への延長）。
- **バリアフリー地図の欠如**: バリアフリー情報が載った小川町の地図が存在しない。
- **障害者間および障害者の家族間のつながり不足**: 助け合いのネットワークがない、あるいは少ない。

3）　制度のバリア

- **生活サポート事業所の不足**: デイサービスはあるが、夕方以降に利用可能な障害者（児）の預け先がない、あるいは限定されている。
- **移動支援サービスの利用困難**: 予約が取りにくく、行き先が公共施設に限定されるなど、ルールが厳しい。
- **グループホームの受け入れ不足**: 重度障害者を受け入れる施設が小川町内にはなく、町外の施設を利用せざるを得ない。
- **相談員の負担**: 担当する障害者の数が多く、十分な対応が困難。
- **自立生活センターの不在**: 小川町にはセンターが存在しない。

4）態度・心のバリア

- **障害特性への理解不足**: 障害者の性格や特性に応じた対応が求められるが、十分に対応できていない。
- **障害者とのコミュニケーションでの不安／偏見／ためらい／過剰な配慮**: 障害者に話しかけてはいけないのでは、といった意識があり、支援や交流が生まれにくい。
- **交流のきっかけの欠如**: お互いが話し合うためのきっかけがなく、コミュニケーションが生まれにくい。
- **交流の場の不足**: 障害者と地域住民が自然に交流できる場が整備されていない。

障害者が求めるもの

バリアフリー整備

障害者グループの活動促進

利用者特性への配慮、支援体制の強化

交流の場の設置

3.小川町の高校生

10代という貴重な時間を過ごす場所として故郷は重要である。では、小川町の高校生は町でどのように過ごしているのだろうか。
高校生の居場所を作ることは、彼らが高校卒業後も小川町に住み続ける、あるいは一度離れてもいつか戻ってくることにもつながるだろう。

高校生視点の
まちづくり
ワークショップ

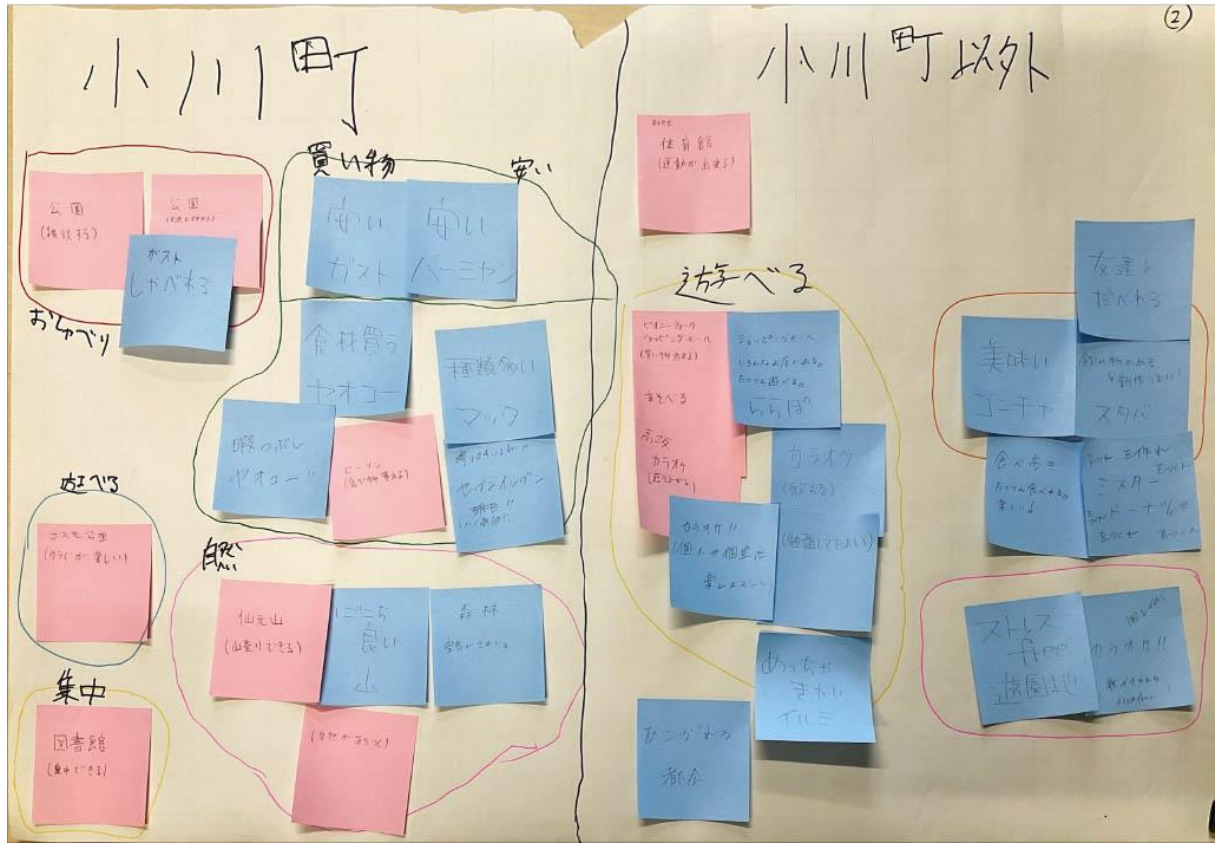
ワークショップ

小川町について知り、地域活動に参加する授業「おがわ学」の2コマをお借りし、ワークショップを開催

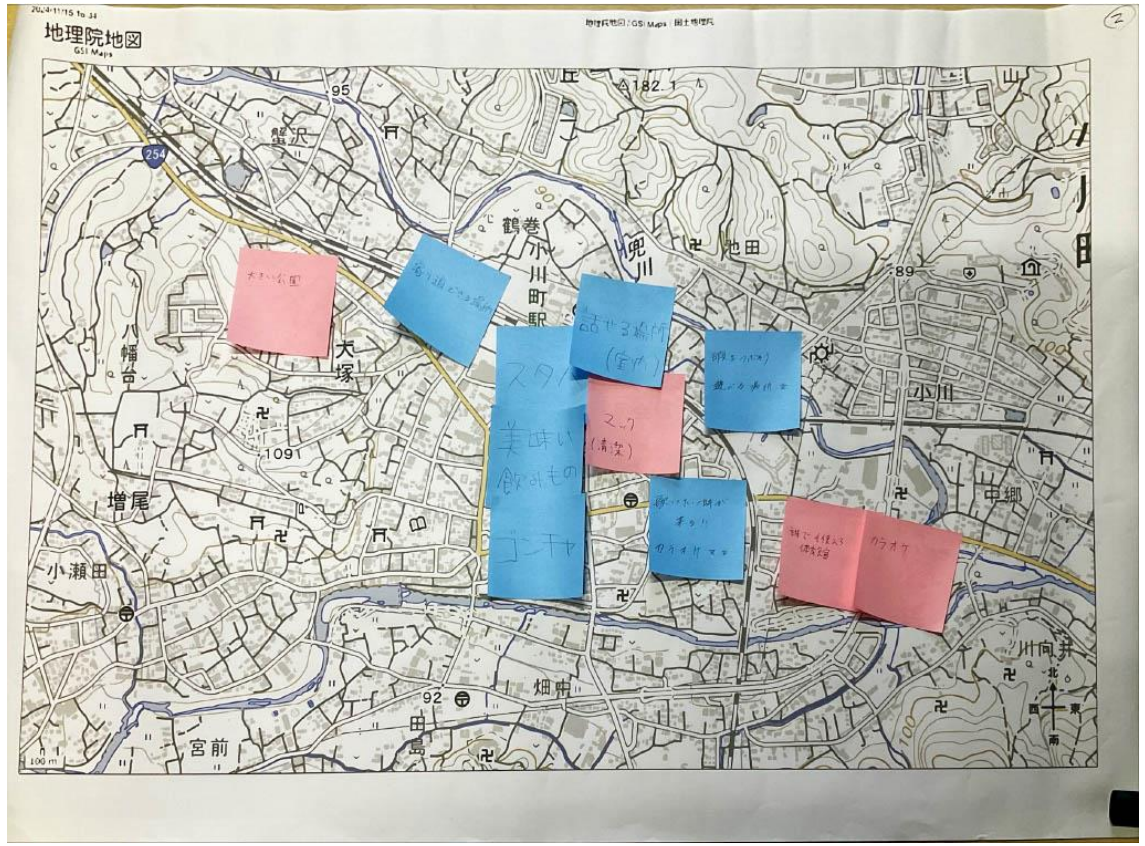
小川高校3年生18人が参加。

1. 自分たちにとってよく行く場所
   よく行く理由、好きな理由
2. 1を元に、小川町にあってほしい場所

について考えてもらった



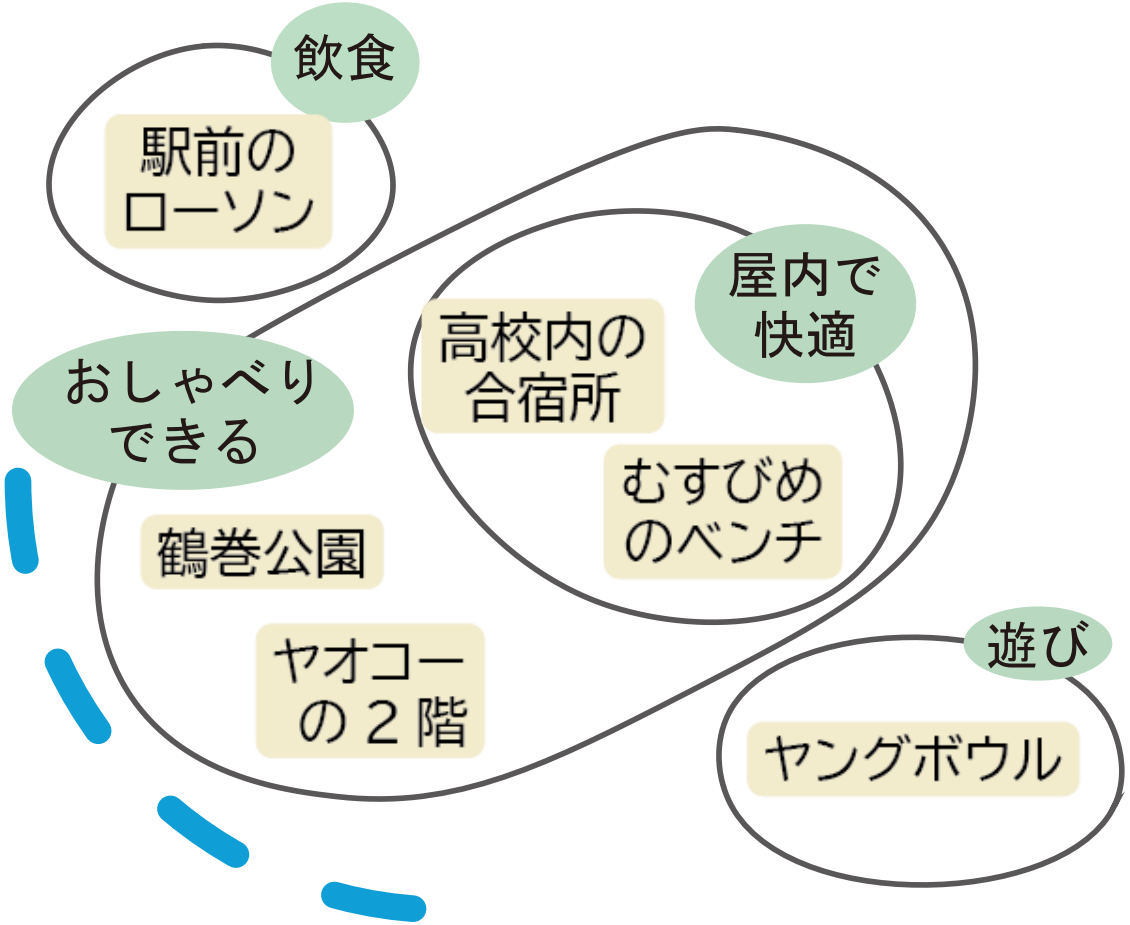
町内・町外でよく行く場所と共通要素をまとめたもの



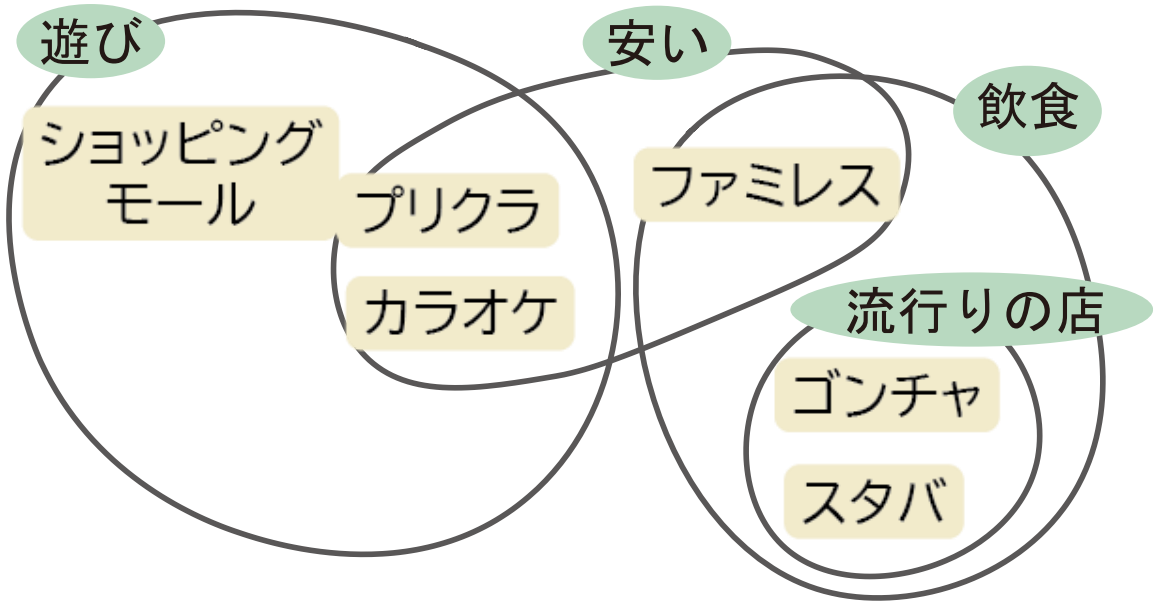
左を元に考えた小川町に欲しい場所

高校生が過ごす場所

小川町内で過ごす場所



小川町外で過ごす場所



よく行く街

東松山　高坂　川越　池袋　渋谷

高校生が求めるもの

高校生でも気軽に入れて
長時間滞在できる

駅・学校から近い

運動できる

放課後に軽食・飲み物を
安く買える

4.わたしたちの提案

できることから
始めよう！

「みんひろプロジェクト」

提案

「みんひろプロジェクト」

＝「**みんなの広場**」を期間限定で設置する社会実験

高校生、障害者とともに、今ある場所を活用しながら
誰もが安心して過ごせるインクルーシブな公共空間を
実験的に作り出す

→繰り返すことで、新たな視点も取り入れながら
　よりインクルーシブで魅力的な小川町へ！

立地

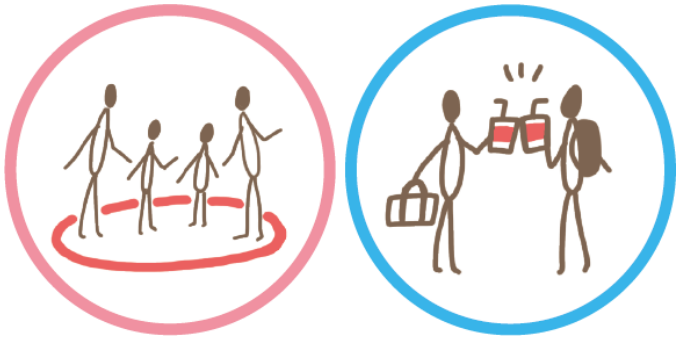
小川町役場・リリックおがわ前の広場、リリック一階

・高校生の通学路に近く、訪れやすい
・普段訪れる人は少なく、活用しきれていない

小川町役場前

リリックおがわ前

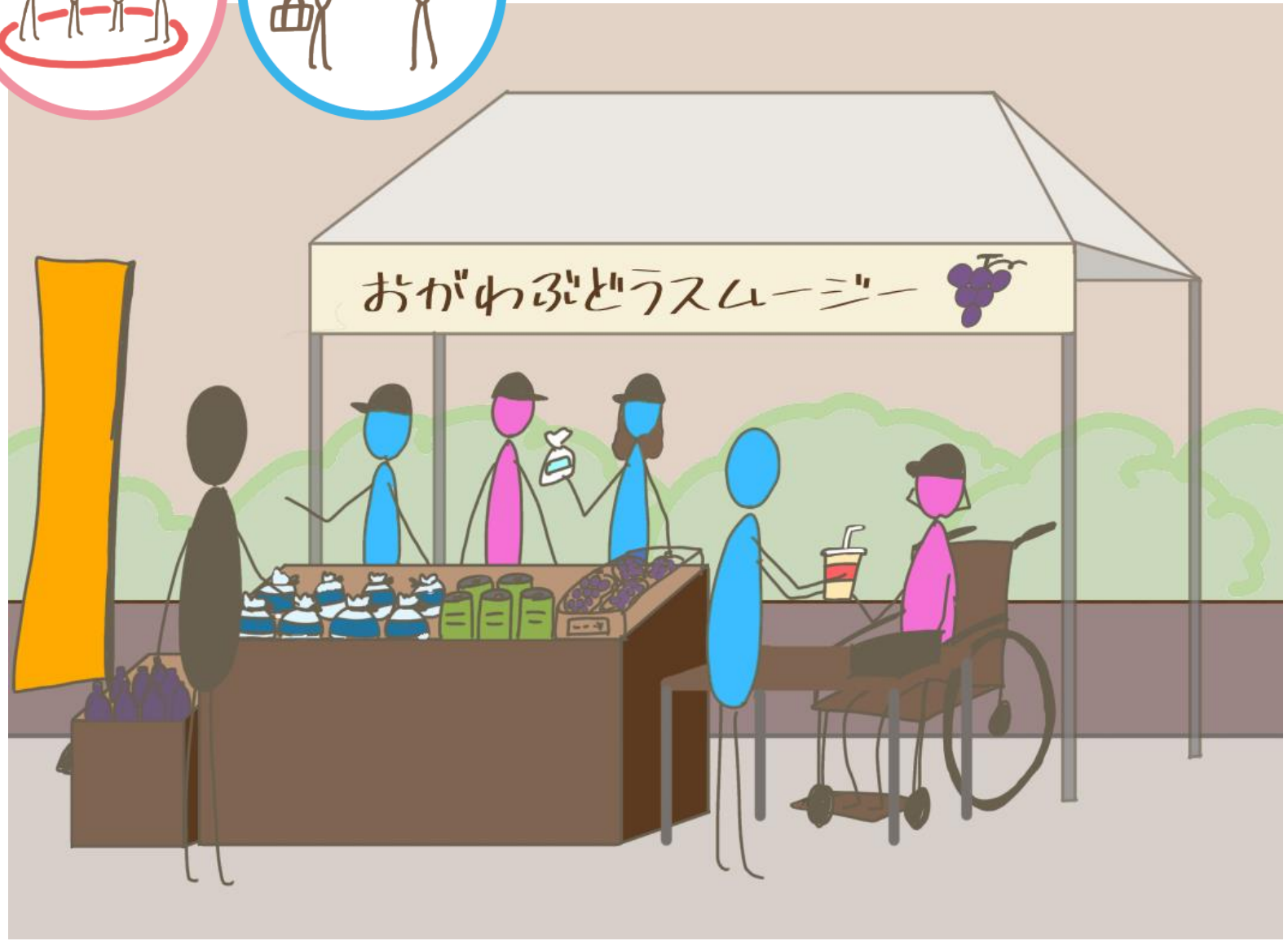
提案
-広場-



障害者グループの活動促進
放課後の手軽な飲食

- おがわ学と連携した商品開発
- 障害者や高校生による商品の販売

提案
-広場-



提案
-広場-

気軽に来れて長時間滞在できる
高校生も居やすい空間作り

- 机とベンチの設置
- パラソルやテントの設置
- 小さなセクションに分けられたスペース

提案
-広場-

運動できる広場

- 卓球台の設置

- 軽スポーツ用具の貸し出し
（例 ： バドミントン、 フリスビー、ヨガマット、ボッチャなど）

提案
-広場-

バリアフリー整備：
ユニバーサルデザインの交流広場

- 勾配の緩やかなスロープや誘導ブロックの設置
- 車いすでも使いやすい高さとスペース
- コミュニケーションボードの導入
（ホワイトボードや）

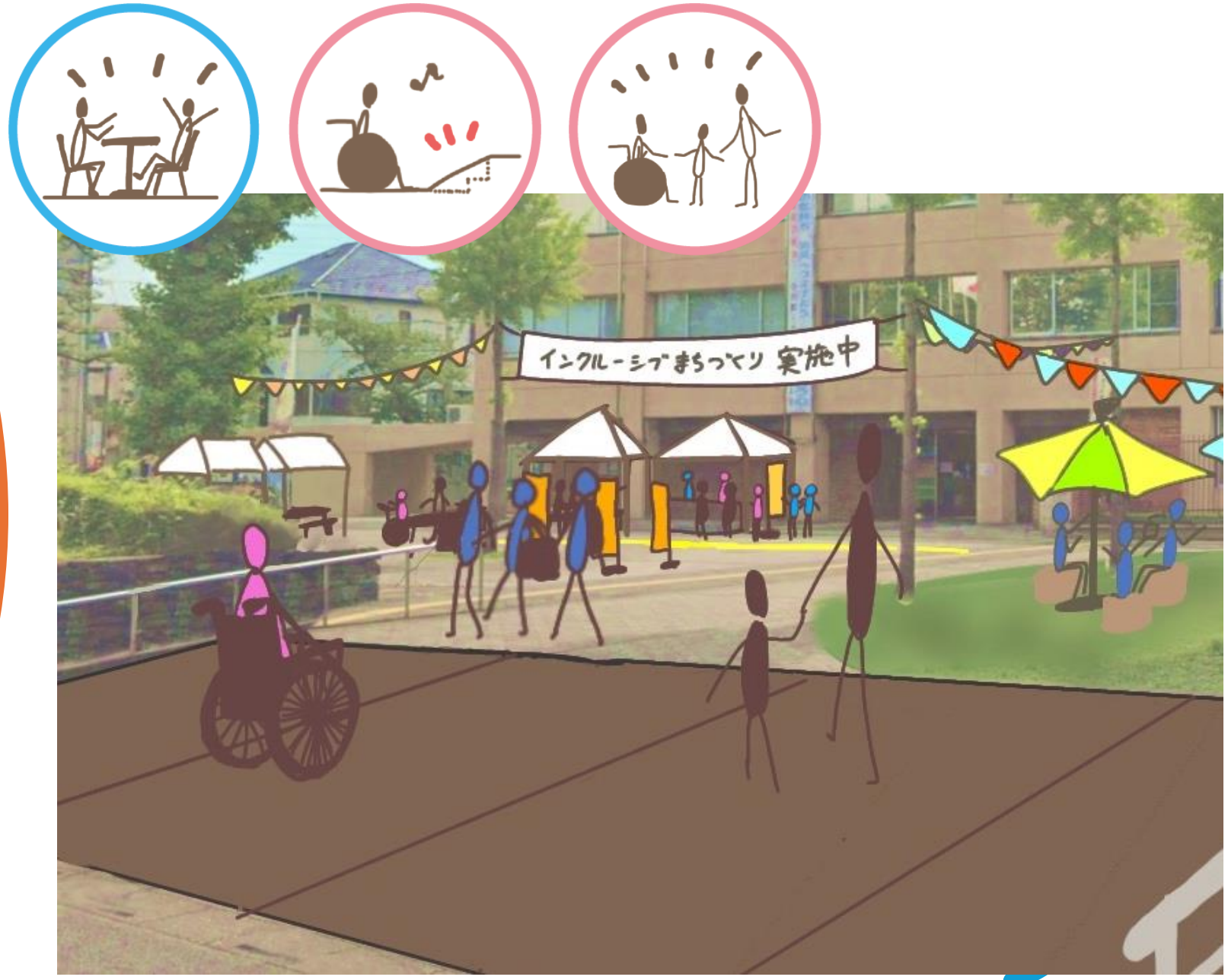
提案
-広場-

交流の場の設置

- 交流イベントの実施
- ワークショップの開催
- 意見箱の設置

提案
-広場-

提案
-広場-



提案
-リリック1階-

来場のきっかけづくり：アート展示

- 高校生や障害者のアート作品などの展示
- 自分/友達の作品を見に行くことが
  来場のきっかけに

提案
-リリック1階-

交流の場の設置

- アートの展示を通して、
高校生同士や障害者同士、または双方の
コミュニケーションが生まれるきっかけに。

障害者＆家族のサポート

- 障害者（児）の預り施設
- バリアフリー地図や施設情報などが集まる
情報センターの設置

提案
-リリック1階-

障害者＆家族のサポート

- 障害者（児）の預り施設
- バリアフリー地図や施設情報などが集まる情報センター

インクルーシブまちづくり 実施中
小川町インクルーシブまちづくりプロジェクト
スムージー販売中

社会実験 実施中
リバーク
あがわ

「みんひろプロジェクト」

の運営方法の提案

「みんひろプロジェクト」の運営方法の提案
- 関係者（行政・障害者・学校）の連携と役割案 -

社会実験として、
小さなこと、
できることから
始めよう！

行政（小川町役場）
- にぎわい創出課
- 健康福祉課 など

役割（例）：
- 資金面での支援
- 技術的支援
- 場所の提供
- 許認可の取得支援
- 広報支援
- 安全管理　など

意見交換、
協力など

意見交換、
協力など

共通の役割（例）：
- ネットワークの構築
- 目標の共有
- フィードバックの共有
- 地域住民の巻き込み　など

障害者グループ
- 障害者の有志
- 障害者の家族　など

役割（例）：
- 障害者の参加促進
- バリアフリーへの助言
- 障害に関する啓発活動
- 障害のある参加者へのサポート　など

意見交換、
協力など

小川高校
- 先生
- 高校生の有志 など

役割（例）：
- 高校生の参加促進
- SDGsの授業やおがわ学などの活用
- 学校施設の提供
- イベントのサポート　など

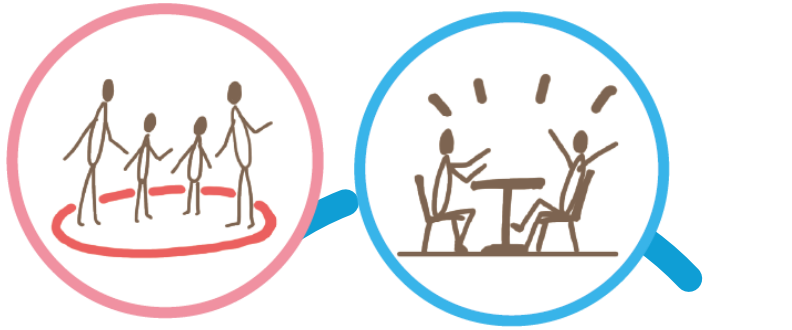
「みんひろプロジェクト」を成功させるための7つのステップ案

1. 概念設計とビジョン共有
2. チームビルディングとネットワーク構築
3. 企画フェーズ
4. 実施準備
5. 実施
6. 評価とフィードバック
7. 長期的な発展に向けて

1）　企画案とビジョンの共有

- 目標設定:
  - 「障害者と高校生が主役となり、すべての人に開かれたインクルーシブな広場を作る」という具体的なビジョンを文書化する。
- コンセプト作成:
  - 広場の役割や機能（例: バリアフリー設計、地域交流の場、湧き水活用、情報センターやイベント会場としての役割など）を明確化。
- 関係者との最初の打合せ:
  - 行政（小川町役場）、障害者グループ、学校などとキックオフミーティングを開き、関係者の理解を得る（共通理解を図る）。

2）　チームビルディングとネットワーク構築



- 障害者（障害者の家族）と高校生の有志募集:
  - 障害者（障害者の家族）: 健康福祉課や事業所を通じて参加者を募る。
  - 高校生: 小川高校の先生を通じて、SDGs授業やおがわ学を通じて募集や広報を行う。
- ワークショップの開催:
  - 障害者と高校生が相互理解を深めるための対話型ワークショップを開催。
  - テーマ例: 「互いの強みを知る」「地域に必要な広場のイメージを共有する」など。
- 三者（行政・障害者・学校）の連携:
  - 協力体制を構築し、役割分担を確認。

3）　企画フェーズ

- 広場の簡易設計:
  - 障害者と高校生の意見を反映して、使いやすいバリアフリー広場の設計を決定。
  - 湧き水を活かす方法や、既存の設備（屋外と屋内）の利用方法を検討。
- イベントスケジュール作成:
  - 試行期間（春または秋の2週間など）の具体的な活動内容を決める。
  - 例: 高校生による音楽ライブ、アートギャラリー（高校生や障害者が制作した絵画や作品を展示）、飲み物販売、高齢者向け体操教室、キッズ向けゲームコーナーなど。
- 資金計画:
  - 小川町行政へ助成金を申請（少額・具体的な用途を記載）。
  - 他の支援団体やクラウドファンディングも検討。

4）　実施準備

- 物理的準備:
  - 広場の整備（簡易的なバリアフリー化、イベント旗や簡易テントの設置など）。
  - 必要な設備（飲料販売の簡易設備など）の準備。
- 事前トレーニング:
  - 高校生: 接客方法や障害者（お客さん）とのコミュニケーション研修。
  - 障害者: 広場での役割分担やスキル確認。
- 広報活動:
  - 地域住民やメディアに向けて情報発信。
  - 学校や障害者団体のネットワークを活用して周知。

5）　実施

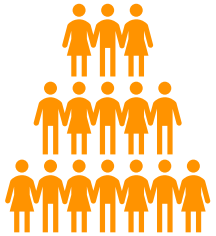
- 広場運営:
  - 障害者と高校生が主体となり、広場での活動を実施。
  - 日々の運営状況を記録し、改善点を随時反映。
- イベント実施:
  - 例：高校生や障害者のアート作品の展示、地元の食材を使った飲食の販売など。
- モニタリング:
  - 各日の参加者数やフィードバックを記録。
  - 障害者と高校生の満足度を確認。

６）評価とフィードバック

- 終了後の総括:
  - 参加者（高校生、障害者、住民）から意見を収集。
  - 広場の利用状況や問題点を分析。
- 報告書作成:
  - 助成金申請に必要な成果報告書を作成。
  - 写真やアンケート結果を含めて、次回の改善点を提案。
- 次回への応用:
  - 初回の試行結果をもとに、次の取り組み（NPO設立や長期広場運営、子どもや高齢者など新たな視点）を計画。

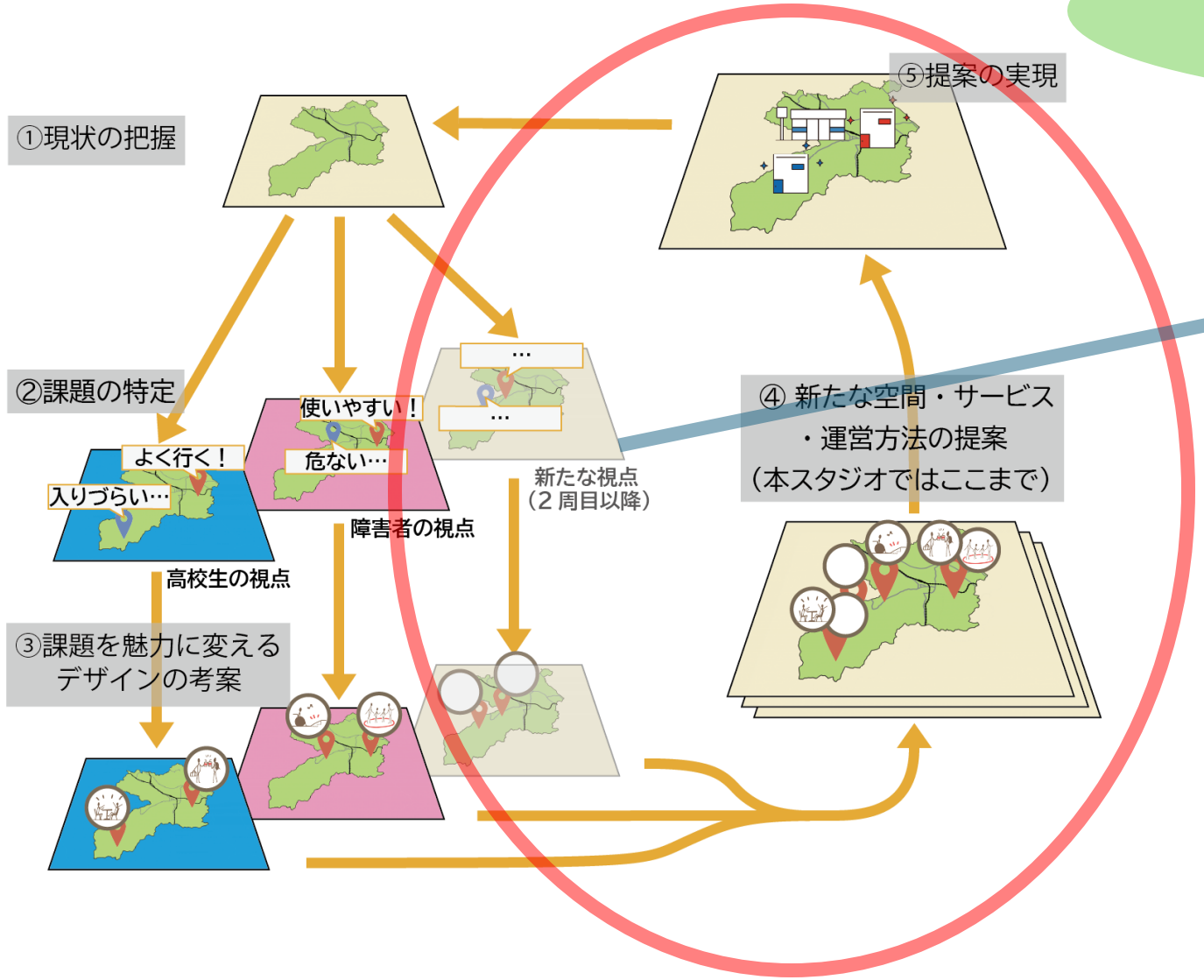
7）　持続可能な取り組みに向けて

- ネットワーク強化:
  - 初回の試みで得たつながりを維持・発展させる。
- 規模拡大:
  - 長期的な広場運営や、さらに多くの参加者を巻き込む計画を立案。
- 行政との継続的連携:
  - 行政の技術的支援や資金支援を継続的に得られる仕組みを構築。



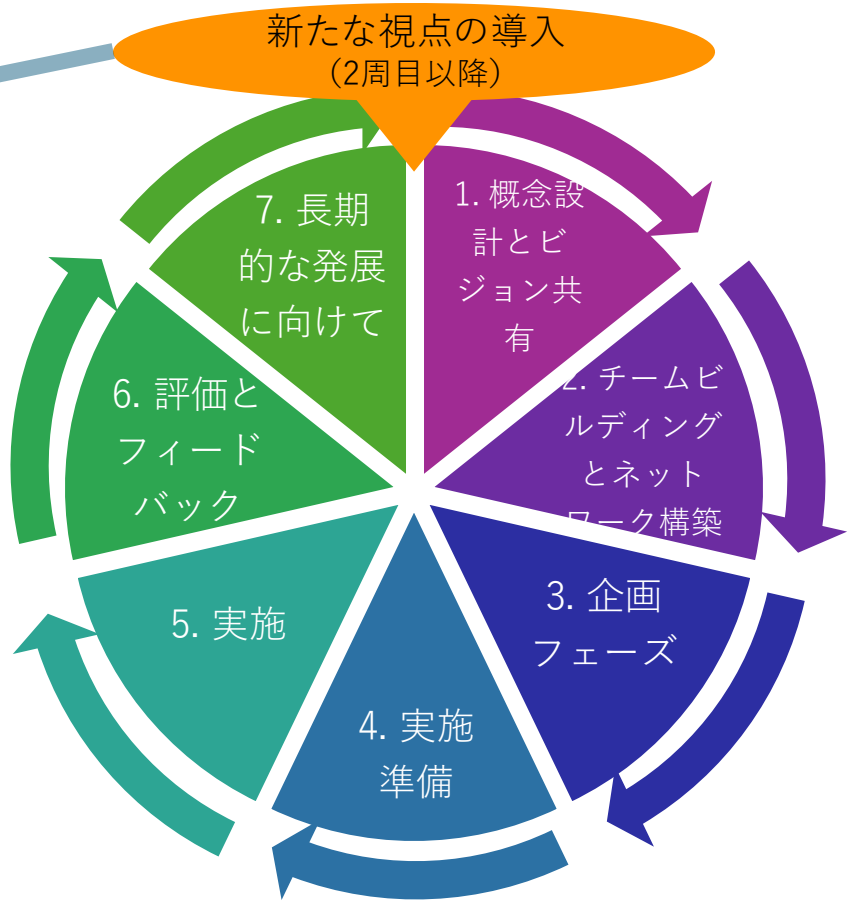
持続可能な取り組みに向けて

インクルーシブまちづくりのプロセス

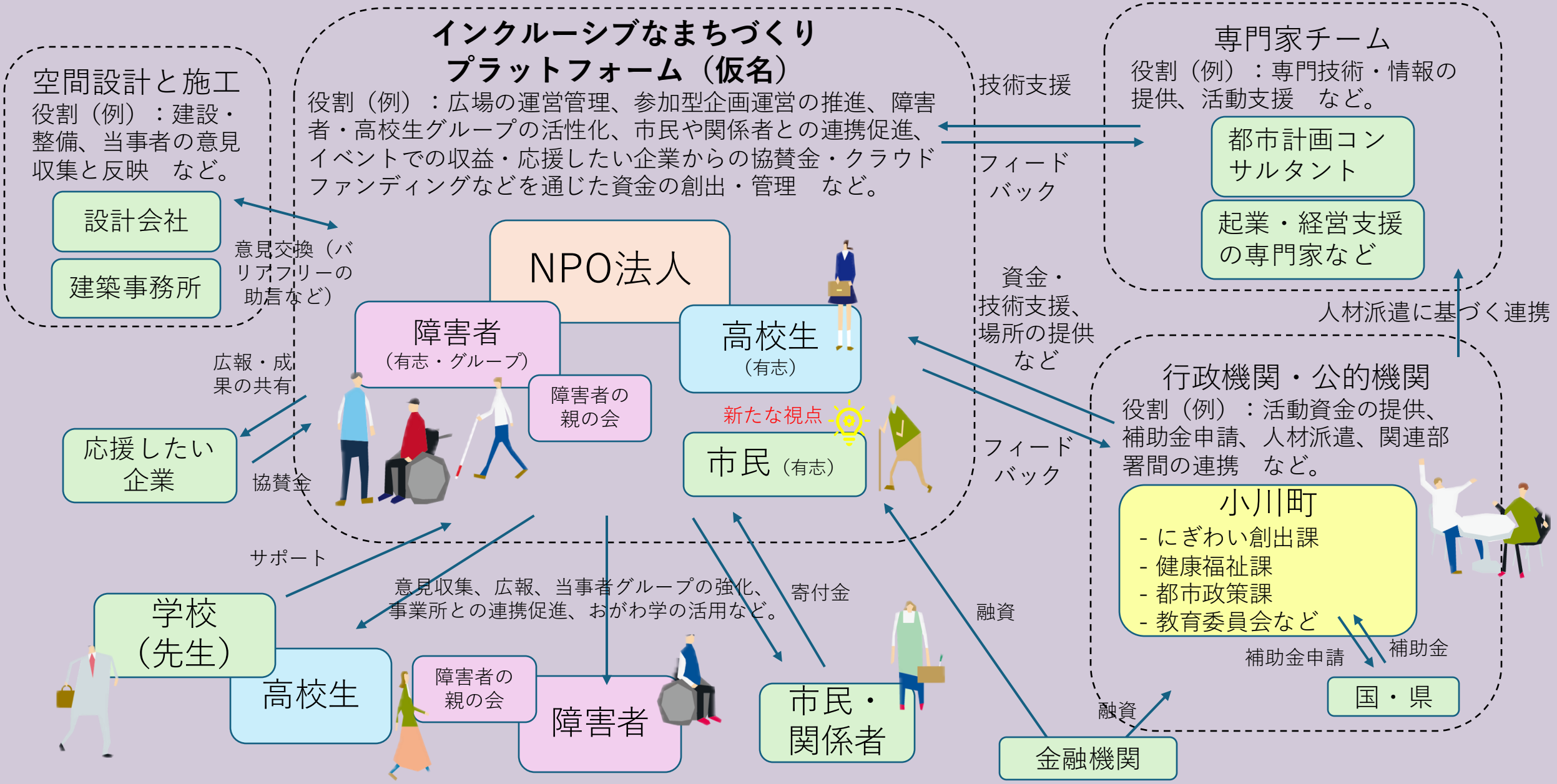


新たな視点を取り入れ、持続可能な取り組みをみんなで実現していこう！

「みんひろプロジェクト」
成功させるための7つのステップ案



将来的な運営方法の提案：持続可能な取り組み（法人化）に向けて
-関係者の相関図案-



ワークショップのテーマ

インクルーシブな空間づくりに必要な「もの」や「方法」

グループディスカッションの進め方:

1. 自己紹介（どのような立場で小川町と関わっているか）
2. 各自がインクルーシブな空間づくりのアイデアをポストイットに記載

例えば：「こんな広場が欲しい」

「広場にこんなものがあるといいな」

「こんなイベントやりたい」

「こんな運営方法がよいのでは」など

3. グループごとに共通点を整理
4. 実現可能で優先度の高いアイデアをまとめる